

ほくよう通信

30年3月号

ご挨拶

皆さま、日々のお仕事ご苦労様です。

今年の冬は例年のない寒さが続きました。インフルエンザも例年の2倍の猛威を振るいました。お仕事環境も大変だったと思います。

まだまだ寒い日もありますが、少し春の兆しを感じられる季節になってきました。

3月は学生の方にとっては卒業式、各会社でも人事異動がある時期です。

1年で最も寂しさと不安と期待と決意がいっぱい詰まったそんな時期かもしれません。

わたしたちの仕事の中でも、特別なお仕事をいただく事も多くありますし、

春休みと言うことでショッピングセンターではセールや改装、来客も増えます。

マンションでも日中の人の出入りが多くなりますね。

いつも以上に気を使う時期だとは思いますが、事故やケガには十分に気を付けましょう。

また、季節の変わり目ではありますので、お身体だけには気を付けて下さいね。

何より、皆さんが「元気」に「健康」で「笑顔」で過ごせますことを心よりお祈り申し上げております。

代表取締役社長 小林寿夫

「あたしおかあさんだから」騒動

歌のお兄さん横山だいすけさんの歌う「あたしおかあさんだから」の歌詞が批判を受けています
作詞をしたのは絵本作家ののぶみさん(男性)

あたしおかあさんだから……で始まる歌詞で、結婚前は派手な生活をしていたけれど、結婚しておかあさんになったから子供中心の生活に変わり、ラストの部分で、ライブに行ったりや自分の服を、買うことより「おかあさんになれてよかった。だってあなたにあえたから」って締めくくる

歌詞を読んでも、いかにも男性が書いたものだなあって感じますねえ

この批判を受けて横山だいすけさんや作詞家ののぶみさんは謝罪をしました。

上沼恵美子さんが「何が悪いのかわからない」と批判騒動を一蹴した上で、

「あなたにあえたから」で泣かそうとする意図が丸見えのあざとい歌詞と評しました。

何でもかんでも噛みつく今の風潮には私も危惧を感じます。

許容範囲がどんどん狭まってきているのでしょうか。

多様性の時代と言いながら、それを受け入れるに至っていない心情。過渡期のなか、その歪みが一番顕著なのが現代なのかもしれませんね。職場のモットーにある「他人の長所が見える自己の成長を」という創業社長の言葉が一層輝きを増していると思うのは私だけでしょうか？

見出しを読んで、「ん？下町ロケットじゃないの？」って思った方もいるかもしれませんがね
東京都大田区の町工場が中心となって国産のボブスレー用そりを開発する「下町ボブスレー」のプロジェクトの事です、ジャマイカの女子チーム(2人乗り)が採用して「一緒に五輪を戦う」ということで話題になっていました

本になったりTVに取り上げられたり、また安倍総理が応援して道德の教科書に取り上げられるなど「リアル下町ロケットだ」との扱いを受けていたわけです。

しかし、土壇場でジャマイカチームからキャンセルを受け今回のオリンピックでは使用されませんでした。これだけを聞いたら「こら！ジャマイカ！何してくれとんねん！」とお怒りの方々も多いはず
実際、開発プロジェクトチームも記者会見で「約束がなぜ簡単にひっくり返るのか。何を信じていいのかわからない。法的措置も考える」と怒り心頭の様子。

でもよく調べてみるといくつかの無理からぬ事情があるようです

①五輪出場権をかけた大事なワールドカップで、配達の遅れにより下町ボブスレーが届かなかった。使用することを予定していたジャマイカチームは慌ててラトビア製のボブスレーを調達し試合に臨んだ。

しかも急遽用意したラトビア製で好成績を出した。

②下町ボブスレーが五輪直前にマシンそのものが失格になっていて使用が認められない状況だった
4年に1度のオリンピック、それこそ選手は人生のすべてをささげて臨んでいます。

ワールドカップでの遅延問題はストによる遅延と説明していますが、それも含めてあらゆる事態を想定して確実に届けられる準備をしなかったプロジェクト側の明らかなミス。

失格マシンの改良問題は合格するかどうかわからないマシンを待つ方が一合格しなかったら取り返しがつかない。予選通過まではラトビア製を使って、通過したらこっちを使ってくださいねなどという虫のいい話までしていたようです。

一方的に約束を破ったジャマイカが悪いという風にしたいようですが、選手目線で考えたら自分たちの必死の思いに寄り添って来ていないと感じるのではないのでしょうか

どこか選手が置き去りにされた出来事なんじゃないのでしょうか。

運命共同体というのであれば、絶対に遅延はあり得ないし、不合格製品など論外でしょう
日本側の考えの甘さが露呈した出来事でした。

法的措置など恥の上塗りほしきものです

相手との信頼を築こうと思ったら、自分がちゃんと約束を果たす。

これが大事な視点だと思います

この出来事を他山の石として、わが身を振り返ることが大事ですね。



最近読んだ本の紹介

松岡圭祐著「黄砂の籠城(上)(下)」

日清戦争後の1900年、中国で勃発した外国人排斥運動・義和団事件で、北京の公使館区域は義和団戦士たちに包囲され、列強の外交官や家族たちは苦境に陥ります
日清戦争で敗北した中国の利権を争って欧米各国がハイエナのように群がり、そのなかで起きた強圧的な中国人民支配が原因で起こった外国人排斥運動。北京に駐留する外国人たちをせん滅しようと包囲する勢力と、その危機に冷静に対応した新任駐在武官・柴五郎が率いる日本人たち。過酷な状況の中、規律正しく、勇敢であり世界の模範となって称賛された

日本人たちの史実に基づく小説

現代のわれわれが失いつつある日本人の美德を思い出させ

、誇りを有てるようになる気がします

先に書いた下町ボブスレーとは真逆の姿ですね

